

音楽科（器楽）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○器楽教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学器楽 音楽のおくりもの</h1>	<div style="text-align: center;">17 教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「何が同じで、何が違う？」では、音の特徴と楽器の構造や奏法との関係について気付いたことを書き込めるようになっている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○学習のねらいをスタート、まとめの曲をゴールとして、基礎的な学習から段階的な構成になっており、創作と関連付けて学習できる教材も5つ用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から始められるよう工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○巻頭ページの口絵には、箏と篠笛の家元から中学生へのメッセージを掲載し、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のための工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○「何が同じで、何が違う？」のコーナー等で、課題や学習方法が掲載されている。</p> <p>○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○「まなびリンク」として、範奏動画の視聴、別途資料がダウンロードできるよう二次元コードを掲載している。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説がされており、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</p>	
総 括	<p>○口唱歌を取り入れた学習により、深い学びにつなげる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎の習得から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学生の器楽</h1>	<p>27 教 芸</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「深めよう！音楽」では、イラストの吹き出しがその曲の特徴について説明し、思考・判断につながる助言が示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○教材には学習課題(ねらい)や、学習内容に即した音楽を形づくっている要素が示されており、また創作活動と関連付けて学習できる内容も用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から練習できるよう工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○各界の著名人からのメッセージや、同世代の音楽活動の様子を掲載し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考える工夫をしている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻末の図鑑では、様々な楽器を一覧で掲載し、打楽器のページには、たくさんの楽器についての奏法が、写真を入れて詳しく説明されている。</p> <p>○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○学習資料として活用できる二次元コードが掲載されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などでは、UDフォントが使用されている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説がされており、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○ソプラノリコーダーの楽曲数が拡充され、深い学びにつなげる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎の習得から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

音楽科（器楽） 調査資料 2

○分量について

内容	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	106	106

○学習活動別教材数について

内容	教出	教芸
1 扱っている弦楽器の数（和楽器を除く）	19	13
2 扱っている管楽器の数（和楽器を除く）	13	23
3 扱っている打楽器の数（和楽器を除く）	7	18
4 扱っている和楽器の数	13	24
5 独奏教材の数（練習曲を含む）	58	83
6 二重奏以上の合奏教材の数	36	30

○その他

内容	教出	教芸
1 我が国や郷土の伝統音楽の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の5つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○吹く楽器と弾く楽器の共通点や相違点について考えるコーナーがある。 ○「音のスケッチ」として、和楽器や唱歌を用いた創作が掲載されている。 ○「まなびリンク」として、動画で演奏方法や発展内容が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の5つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○「日本音楽の楽器編成」で、それぞれの日本の伝統音楽の種類で演奏される主要な楽器を一覧で紹介しているコーナーがある。 ○「My Melody」として、箏を用いた創作が掲載されている。 ○二次元コードで、演奏家の紹介が掲載されている。